

第4回 東京都地域活動に関する検討会
議事要旨

平成30年3月7日（水）
都庁第一本庁舎42階北塔 特別会議室A

午後1時15分開会

○小林地域活動推進課長 それでは、定刻になりましたので、始めさせていただきます。

大変お待たせいたしました。ただいまから第4回東京都地域活動に関する検討会を開催させていただきます。

私、事務局を務めております、東京都生活文化局都民生活部地域活動推進課長の小林と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、座らせて説明させていただきます。

本日の会議でございますけれども、お手元に配布をしております東京都地域活動に関する検討会設置要綱、資料1となっておりますが、こちらに基づき設置されているものでございます。

なお、検討会設置要綱の第8によりまして、本検討会は公開とさせていただいております。また、御異論が特にございません場合は、これまでと同様に、本検討会の議事録につきましても公表とさせていただきますので御了承願います。

なお、前回までの議事録につきましては、東京都のホームページのほうにて公表させていただいております。

それでは、ここから検討会設置要綱第5第2項によりまして、本検討会の座長でございます、東京都生活文化局都民生活部長の山本が進行いたします。それではよろしくお願いいたします。

○山本座長 皆様こんにちは、都民生活部長の山本でございます。お忙しい中、本検討会に御参加いただきまして、まことにありがとうございます。

座長ということでございますけれども、進行役ということで進めさせていただきます。高いところから大変恐縮ですが、座らせて進めさせていただければと思います。

今回は、この検討会は第4回ということで、今年度、東京都のほうで始めました新規事業であります地域の課題解決プロボノプロジェクトを題材に、議論させていただければというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、配布資料について、事務局のほうから確認をお願いいたします。

○小林地域活動推進課長 それでは、配布資料についてでございます。

まず、お手元に次第が、まずございます。その後、先ほど申し上げた資料1といたしまして、東京都地域活動に関する検討会設置要綱。それから、資料2といたしまして、東京都地域活動に関する検討会の委員名簿でございます。それから、資料3といたしまして、

本日の座席表となっております。

また、その次でございますが、資料番号なくて恐縮です。A4横のペーパーで「地域の課題解決プロボノプロジェクトについて」ということで、A4ペーパーのパワーポイントから出した資料がございます。それから、その次の資料といたしましては、地域の課題解決プロボノプロジェクト成果報告会の御案内のチラシが1枚入っております。それから、次の資料といたしまして、今年度の地域の課題解決プロボノプロジェクトの成果報告会の資料ということで、支援のあった町会、自治会の取り組みの概要をまとめたペーパーがついてございます。それから、次に資料7といたしまして、A3横の資料でございますけれども、来年度、平成30年度の「地域課題解決プロボノプロジェクト」の支援プログラムの御案内のペーパーが1枚ついてございます。

それから、一番最後になりますが、参考資料といたしまして、昭島市の自治会連合会様から提出のありました今年度のプロボノプロジェクトの説明会、成果報告会参加の評価ということで、1枚資料を配らせていただいております。

以上でございますが、不備等がございましたら、事務局までお申し出いただければと思います。大丈夫でしょうか。ありがとうございました。

○山本座長 それでは、次に、委員の任期について、御説明させていただきます。

今回で、任期が新しくスタートいたしております。その関係で委員の皆様全員には、今回以降の委嘱をさせていただきました。本来であれば、お一人、お一人に自己紹介ということで、時間をいただくところでございますが、時間の都合もございますので、お手元の資料2の委員名簿をもって、御紹介を変えさせていただきたいと思っております。御了承ください。

なお、本日は委員のうち7名の方が欠席となっております。中央、文教、目黒、江戸川、町田、東久留米、稲城の委員の方が欠席ということで、福生市につきましては、おくれて来られる、一応、出席ということで伺っております。以上の方が、欠席というふうになっております。

それでは、本日の次第に入らせていただきたいと思います。

議題は、地域の課題解決プロボノプロジェクトでございます。

東京都では、今年度より、企業の社員等の経験やスキルをいかしたボランティアであるプロボノを活用して、町会・自治会の課題解決に取り組む地域の課題解決プロボノプロジェクトを今度から実施しております。

今年度初めての取り組みでございますが、八つの町会・自治会に御活用いただき、先日の3月1日に、表参道にあります東京都ウィメンズプラザで、成果報告会を開催させていただきました。

このプロジェクトにつきまして、御協力いただいております認定NPO法人サービスグラントの代表理事の嵯峨様に、本日はお越しいただいております。

それでは、嵯峨様のほうから、このプロジェクトについて、御説明をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○嵯峨代表理事 サービスグラントの嵯峨でございます。

本日は、こちらの高い座席から、大変失礼いたしますけれども、きょうの議題であります地域の課題解決プロボノプロジェクトについての御説明をさせていただきたいというふうに思います。

まず初めに、今、山本部長のほうからも、お話がございましたけれども、つい先日、3月1日になりますけれども、東京ウィメンズプラザで地域の課題解決プロボノプロジェクト、今年度の成果報告会を開催させていただきました。

こちらは150名を超える皆様に会場にお越しいただきまして、非常に盛況のうちに報告会を実施させていただきましたことにつきまして、まずは、お礼申し上げたいというふうに思います。

まだ、今年度の新規の取り組みでございますが、プロボノという言葉自体も、きょうは改めてこの後、御説明させていただきますが、まだまだ耳なじみのない新しい言葉でございます。ぜひ、御不明な点ですとか、御意見等がございましたら、この場でお伺いできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、私のほうからは、お手元にも配布がされておりますけれども、「地域の課題解決プロボノプロジェクトについて」と横書きしております、画面にも表示されております、こちらの資料に沿って、御説明させていただければと存じます。

1枚めくっていただきまして、この取り組みなのですが、まず、基本的な目的としましては、さまざまな地域課題に取り組んでいらっしゃる町会・自治会の活動を応援するというところでございます。特に、地域の中で今若い方たち、また外国人の方たち、さまざまな人たちが地域に住んでいらっしゃいますが、なかなかまだ町会・自治会というところに参加が行き届いてないという現状があるかと思っております。

こういった新しい住民の人たちも含めて、顔が見えるつながりをつくっていきたい。さ

さまざまな幅広い住民の方たちが、関われるまちづくりを進めていきたい。このようにお考えの町会・自治会の皆様の活動を応援していくというのが、このプロジェクトの基本的な目的というところになっております。

その中でプロボノという、最近よく四文字の片仮名というのが、いろんなところに出てきまして、非常に、こういう新しい言葉というのが入り乱れているという昨今でございますけれども、このプロジェクトのキーワードがプロボノというものでございます。

これは何かといいますと、ここにも書いてございますが、専門的なスキル・経験、これをボランティアとして活かしていくという、このことを通じて社会課題の解決に何か成果をもたらしていくということを言います。

実際には、例えば会社でお勤めの方たち、あるいは個人で事業をされていらっしゃる方、皆さん、いろいろな専門性、経験、スキル、そういったものを多数お持ちでいらっしゃいます。特に、東京という町は、たくさんの企業が本社を構え、そこに数多くのビジネスパーソンがいらっしゃるわけです。こういった方たちの経験やスキルをぜひ地域活動に活かしていけないかというのが、このプロボノの考え方の根っこにあるところでございます。

実は、日ごろビジネスで活動されている方たちも、地域の活動ですとか、社会課題といったことに関心がないかという、そうでもないんです。実は、そういうことに関して、関心のお持ちの方もいらっしゃいます。

ただ、なかなかそのきっかけがない、つながりをつくる仕組みがないというところで、なかなか今までつながってきておりませんでした。そこをこのプロボノという言葉を通じて、呼びかけをしていきまして、幅広い企業人の方たちに、こういう地域の活動に参加していただくというのが、現在、私どもが取り組んでいる活動になります。

参考までに、このプロボノという言葉の下の方に、語源も御紹介しております。ラテン語の「Pro Bono Publico」という言葉が語源だそうです。「Pro」というのは、前置詞の「For」、~のためにという意味で、「Bono」というのは、「Good」だそうなんですけれども、フランス語でボンジュールとか、イタリア語でボンジョルノとか、こんにちはこの意味なんですけれども、グッドという意味。

セボンという消臭剤とかもありますよね。それからボンカレーというカレーもありますけれどもね。これボンカレーと、おいしいカレーと、こういう意味でボンという言葉を使っている。そういうような語源ですので、全く耳なれない言葉かという、実は日本でいろいろ売られている商品名などにも使われている言葉が、ちょっとまざっている。このプロ

ボノというのが、そういう語源から来ている言葉でございます。御参考までに。

また1枚めくっていただきまして、今回の取り組みなんです、町会・自治会の皆様と、またプロボノワーカーと呼んでございますが、さまざまな経験スキルをいかしてボランティアをしていこうとしている人たち。この両者をつなぎまして、このプロジェクトに取り組んでまいりました。

プロジェクトの実施は、昨年11月からことしの3月までということで、実は、まだ一部進行中のものでございますが、プロジェクトとして進めております。

具体的にどんなことをしているかといいますと、団体の皆様の基盤強化、こういったものに役立つような、具体的な成果物をお届けするということを目指しております。

その具体的な成果物とは、さらにどういう意味かといいますと、次のスライドになりますけれども、大きく町会・自治会の皆様が抱えていらっしゃる課題・ニーズとして、上に掲げておりますが、三つあるのではないかとこのように考えております。

一つ目が、参加の輪を広げたいということで、今、取り組んでいる町会・自治会活動に、より多くの方たちに参加していただきたい、若い世代に関心をもってほしい、加入率を高めたい、こういうニーズが、まず一つございます。

続きまして、中央になりますが、運営を改善したい。一部の方に運営の負荷がかかっているという中で、担い手をふやしたい、また作業負担、これをいかに軽くしていけないか、また事務作業、これを効率化していけないか、こういうニーズをお持ちのところもあるかと思っております。

また、右の欄になりますけれども、活動を刷新したい、新しく事業を何か企画していけないか、または既存の活動を見直したり、改善したりしていけないか、住民の希望やニーズをもっとよく把握をしていきたい、こういったニーズがあたりになるのではないかとこのように考えております。

非常に多くの町会・自治会の皆様が抱えているであろう、このニーズに対しまして、今年度プロボノでは、下にありますような具体的な成果物を伴った支援に取り組んでまいりました。

参加の輪を広げたいというニーズをお持ちの地域には、例えばですけれども、効果的なチラシをつくっていく、ホームページをつくって活動を幅広く発信していく、あるいはSNS、最近フェイスブックとか、いろいろこういうものが飛び交っておりますけれども、この辺をうまく活用できないかと、こういった要望にお応えするような御支援をさせてい

いただきました。

中段の運営を改善していきたいというところで行きますと、活動内容を具体的に目に見える形にしていく、あるいは効率化をしていく、さらには今の取り組みにマニュアルをつくって、一部の方ではなく、多くの方が活動を共有していけるような取り組みができないかということにチャレンジをしました。

右の段になりますけれども、アンケートの活用ですとか、地域の住民の方のニーズを把握するといったようなことを通じまして、今の地域の住民の方たちが何を望んでいるのか、それをもとに町会・自治会の活動を新たに、どういうふうなことに力を注いでいけばいいのか、こういったものを発見していく、こんなようなことにも取り組んでまいりました。

こういった非常に具体的な支援内容とともに支援をするということが、今年度の取り組みの特徴でございます。

もう一枚、次のスライドに行きますが、こういったメニューのもとに、今年度、支援先となつていただく町会を募集させていただいた中で、8団体を応援させていただきました。こちらにあるとおりでございますけれども、特に上の四つ、井の頭一丁目町会さんから足立区町会・自治会連合会さんまでが、どちらかという情報発信ですね。活動をいかに外部に広げていくか、こういったところの御支援をさせていただいたところになります。

5番目の大森本町北町会さん、こちらは特に災害弱者の皆様に対して、町会がいかにサポートできるかと、緊急時にどのような形で災害弱者の方たちにサポートするかという流れを整理する、マニュアルをつくる、こういったところの応援をさせていただきました。

下の三つです。北千束中自治会から郷地東町連合自治会さんまでに関しましては、地域の住民の方たちが、町会・自治会の活動にどのようなニーズをお持ちでいらっしゃるのか、これから、どれくらい皆さんたちが主体的に参加するといったことも含めて、御要望をお持ちなのか、この辺の地域の皆様たちの現状のニーズを把握するといったアンケートの取り組みを応援させていただいたという形になっております。

こちらの詳細につきましては、実は別冊でお配りさせていただいております資料のほうに、各町会につき1ページずつ、御紹介をさせていただいておりますので、詳細に御興味ございましたら、該当するページをごらんいただければと思っております。

今年度、このような8団体を応援させていただいたプロジェクトでしたが、1年を振り返りますと、6ページ以降ですね、次のスライド以降のような流れで進めてまいりました。

8月の末に応募の締め切りをさせていただきました。その前に説明会なども開催しまし

て、また説明会の中で、各町会の皆様の課題を整理するようなことをした上で、御応募を検討いただきました。そこから、私どもの方が各町会・自治会さんに応募いただいた中で、皆様の町会・自治会のほうに回らせていただきまして、審査と書いておりますが、面接といたしますか、ヒアリングといたしますか、いろいろ地域の事情をお伺いしながら、どういったサポートが適しているのかといったところの御相談をさせていただきました。その後、事前準備をいたしまして、この各町会・自治会にかかわるプロボノの皆さんたちを、大体一つの町会につき5人前後でプロジェクトチームという形を組ませていただきまして、この活動を始めさせていただきました。

次に行きまして、実際のプロジェクト自体は、11月11日に全体のキックオフと呼んでおりますけれども、全体で顔を合わせるような場をもちまして、町会の皆様とチームの皆様とが初顔合わせ、そこからプロジェクトをどのように進めていくかといった御相談をしながら、その後、具体的な作業に入りました。

ヒアリング・各種調査と書いてございますが、プロボノの皆さんが、各地域にお伺いをして、住民の方への個別のヒアリングをさせていただいたり、中には街頭に立って、御一緒にアンケートを配ったりしながら、地域の方と直接接しながら、情報収集などに取組ませていただいたといった形もございます。

また、そういったところから得られた情報をもとに、団体の皆さんとチームとが打ち合わせを行いまして、そういった中から成果物を練り上げていったというような形になっております。

8ページ、9ページは御参考までなんですけれども、チームですね、町会を応援したプロボノチームの皆さんと町会の皆さんとの集合写真を御紹介させていただいております。本当に参加された方たちは、年代が非常に幅広くて、20代から50代、60代ぐらいまでの方たちが中心となって参加をしていただいております。こういった場で申し上げるのもあれですが、実際に参加している方の多くは、町会とか自治会活動に今までかかわったことがなかったという人たちが、かなり多く参加をしております。そういった方たちも、こういうプロジェクトの形にして地域に入っていくと、非常に興味をもって、地域の方と親身になって御一緒にプロジェクトを進めていく様子が、各所で散見されたといった状況でございます。

こういった本当に地域の方とプロボノの人たちとが連携をしながら、プロジェクトを進めていくということを通じて、それぞれの地域に新しい風が吹きまして、例えばですけれ

ども、北新宿二丁目町会さんでは、フェイスブックの活用も早速始めていらっしゃるであ
るとか、小竹町会さんもホームページができ上がりました、こちらがいよいよ運用されて
いって、情報発信が進んでいくであろうというふうに思われます。

足立区の町会・自治会連動におきましても、新しい町会・自治会への参加を呼びかける
ようなチラシが、今デザインまでできておりまして、印刷はこれからというところになり
ますけれども、これから配布がされて、どのような反応があるかというところが、これか
らのいよいよ勝負というところになりますけれども、この年度を通じて成果物ができ上が
ってきておりまして、これからの反応も楽しみな状況ということでございます。

続きまして、10ページのスライドです。最後まとめのようになりますけれども、このプ
ロボノの皆様と御一緒に進めていただくプロジェクト、どういったメリットがあるかとい
うことで4点ほど、まとめさせていただきました。

1点目ですが、町会・自治会の皆様が、日ごろ運営上抱えていらっしゃる課題が多数あ
るかと思えます。その全てを解決するというにはならないわけですが、そのうちの
一つ、非常に具体的な形で成果につながるということが、このプロボノプロジェクトの特徴
の一つかというふうに思います。

2点目になります。外部の視点を取り入れることで組織の活性化につながるという点。
これも、どちらかという地域にとっては、よそ者に当たるような人たちなわけですが、
むしろ新鮮な目で、また客観的な視線で地域のニーズを把握する、また、その中から提案
をするというところが、町会・自治会の皆様にとっても、新しい気づきになるといった部
分があるというふうに、お伺いしております。

また3点目になりますが、他地域の町会・自治会の活動を知るきっかけになるといった
点におきましては、それこそ先日の3月1日の報告会のような場で、それぞれの地域の取
り組みを共有するということになりましたので、ほかの地域の状況を知るといったきっ
かけにもなるかと思っております。

そして4点目、非常に重要なところになりますが、専門的で質の高いサポートを町会・
自治会の皆様の御負担としては、東京都さんのところの事業という中で取り組んでおりま
すので、無償で受けることができますし、実際にプロボノとしてかかわる方たちは、これ
はボランティアで参加しておりますので、特に報酬を受け取って、町会の支援をしている
というのではない、非常に純粋な形でかかわっていますので、そういったところも含めま
して、ある意味お金が絡まないことのよさといいますか、そういった御支援の形というも

のが、この場で実現したのかなというふうに思っております。

ただし、というところで、費用に関しましては、ホームページをつくる場合はサーバーというものが必要であったり、あるいは印刷物という場合には、印刷をする印刷屋さんにお支払いをする経費、こういったところは実費経費は団体側の御負担というところになっておりますので、その点は申し添えておければと思っております。

早口になりましたけれども、地域の課題解決プロボノプロジェクトについての基本的な御説明は、以上とさせていただきます。

○山本座長 ありがとうございます。

サービスグラント嵯峨代表のサービスグラントさんは、プロボノの活動を専門的にやられているNPOさんで、今回、このプロジェクトを立ち上げるために当たり、いろいろ相談させていただいて、こういう形で今年度、成果報告まで行くことができたというところでございます。本当にありがとうございました。

あと、もし可能だったら、こちらの各町会での取り組みの資料で、少し成果のところ結構なんですけど、まだ途中経過のところもあるんですけど、どんなことが、このプロジェクトでできたかというところをちょっと御紹介いただくとありがたいんですけど。

○嵯峨代表理事 かしこまりました。

それでは、お手元に配布をされております、表に井の頭一丁目町会と書いてある、こちらの資料に沿いまして、もう少し具体的に、どのような御支援、成果物になったのかというところの御説明をさせていただきます。

まず、井の頭一丁目町会さん。

非常に熱心な活動をされていらっしゃるんですけど、ここにも書いてありますが、みんなのブックカフェという多世代が交流できるような場、またマーじゃん、囲碁、将棋の会、落語を聞く会、それから私が感銘を受けましたのは学童保育、特に11月から1月ですか、非常に暗くなる時期の学童保育の帰り道が暗くなるということで、町会の皆さんたちが見守りをしていらっしゃるんですね。こういった非常に活発な取り組みをやっていらっしゃる地域なんですけれども、やはり担い手の方としては、まだまだもっと広がりがあるのもいいのではないかとということで、どういうふうになれば、この活動にもっと多くの方たちに参加していただけるのかというのが、問題意識としてございました。

そこで、井の頭一丁目町会を応援するプロボノチームは、住民の皆さんたちへのヒアリング、それからアンケート調査を実施しました。

その中から見えてきたのは、情報を伝えるときに、特に若い世代、ファミリー層に情報を届けていきたいということで、やっぱりホームページとかインターネットを使って情報発信していったほうがいいのではないかというような、もともとの思いがあったんですが、いろいろヒアリングやアンケートをしていく中で、むしろ掲示板を積極的に活用したほうが、特に地域の方への情報発信としては、効果的なのではないかというところが見えてまいりました。

そこで、掲示板にどういうふうな情報を掲載していくか、また広報誌のほうに、回覧版にどういうふうな情報を載せていくか、この辺で、いかに多くの方に見ていただけるような情報の出し方ができるかという、そちらに多くの労力を使っていったほうが、効果的な情報発信ができますよということが、わかってきたというようなことになっております。ここから、いろいろなアイデアが出まして、今は井の頭一丁目町会さんのほうでは、実践に移していただいております。ということが、1点の御紹介になります。

続きまして、北新宿二丁目町会につきましては、先ほども少し申し上げましたフェイスブックです。ここを活用して情報を伝えていきたいと。特にこの時期、ちょうど御支援に入っていたときに、12月ですが防災教室というものがございまして、防災教室の集客を高めるために、どんなことができるかということで、このフェイスブックの活用に取り組んでまいりました。

まず、フェイスブックを立ち上げる。この立ち上げるのは、実は本当に簡単にできるわけなんですけど、問題はそれを運用していくというところになります。

そこで約1カ月間、プロボノチームの皆さんたちが、実際に北新宿二丁目町会の一員になり切って、このフェイスブックの投稿を行っていきました。また、その投稿をある意味見本にして、この後は北新宿二丁目町会の皆さんたちが、御自分たちで投稿を行っていくということになるわけなんですけど、加えてチームのほうでノウハウを残していくために、フェイスブックの投稿のためのマニュアルをつくって、地域のほうに残していったということがございます。

そういった形で、今、北新宿二丁目町会さんのフェイスブックも非常に活発に動いておりますので、もし御関心がありましたら、後でごらんになっていただけたらというふうに思っております。

実際に防災教室にも、お一人このフェイスブックを見て来たという方がいらっしまったということで、そういう具体的な反応が、本当に小さいですけどもあったということで、

地域の方も、ちょっと手応えを感じているというところだそうです。

続きまして、練馬区の小竹町会さんです。

こちらは、少し範囲も広いということも、地域の大きさもあるということで、あと「こたけぐらし」という情報の冊子をつくっていらっしやいまして、地域の情報を伝えるような取り組みは、既に取り組んでいらっしやいます。そういう意味で、情報が蓄積しておりますので、それをさらにウェブサイトで発信していきたいというニーズをお持ちでいらっしやいました。

そこで今、ホームページを構築しております、まだ公開には至っていないんですけれども、あとちょっとで公開ができるというところまでこぎつけてきております。ホームページ構築には、もともと地元で、そういう冊子づくりなどに取り組んでいたような方も御参加をいただきまして、皆さんで素材を集めていったという形になります。

特に先日の報告会では、素材を集める過程で、いろいろな地域の中の、課題、ヒアリングをしたり、あと地域に残っている資料を発掘するような作業をしまして、ここにこんな旗が残っていたのかとか、ここにこんな資料があったのかとか、そういう地域の歴史を紐解くような機会になったというような声も聞いております。こういった副産物も、このホームページ制作から出てきたというふうなお話がございました。

続きまして、足立区の町会・自治会連合会さん。

こちらが、ほか割と地域単位の町会・自治会さんが多いわけですが、こちらは区全体の町会・自治会連合会としての応援という形になりました。

足立区さんでは、非常に熱心に町会・自治会活動の支援に取り組んでいらっしやいまして、毎年のように加入促進につながるようなチラシですとか、グッズの制作に取り組んでいらっしやいます。毎年、非常にインパクトのある、目を引くようなチラシなどをつくっていらっしやるわけですが、やはり若い方がふえてきていると、それから外国人の方もふえてきているということで、なかなか加入率は伸びていかないという現状がございました。

そういった中で、本当に毎年工夫をして、取り組んでいらっしやる町会加入率アップの取り組みに、もう一ひねり何か新しいことができないかということで、プロボノのほうに御依頼をいただきまして、若者、女性、外国人と三つの皆様をターゲットとした町会・自治会への加入を呼びかけるようなチラシをつくらせていただきました。

これもチラシをただつくるというのではなくて、プロボノチームの皆さんたちは、いろいろな区内で既に町会に参加をしている外国人の方にお話を聞いたり、また日本語教室に

通っている外国人の方にアンケート調査を行ったり、そういった形で地域の方に実際に足を運びながら情報収集をして、その中で、地域の方たちが町会・自治会に対して、どのようなお考えを持っているのかというところを把握した上で、チラシをつくるということに取り組みました。

そういった中では、町会に全く関心がないということではなくて、関心があるのだけれども、どうやって参加したらいいかわからない。町会長さんの家に行って、入らせてくださいというふうに言うのは、ちょっとなかなか今の若い方には、少しハードルが高いというところがありまして、もうちょっと手軽に、気持ちはあるんだけど、その気持ちをどう表現するかというところで、もう少し敷居の低い応募の仕方というか、申し込みの仕方がないかということで、実際に今度新しくできるチラシには、スマートフォンから申し込みができるような仕掛けを入れたりとか、あるいは簡単にはがきで申し込めるような形ですか、比較的参加しやすいような、きっかけをつくるような部分も盛り込んだような形になっております。

ちょっと短く。そうですね、すみません、ちょっと長くなってしまって恐縮です。

続きまして、大森本町北町会。

こちらは、災害時に災害弱者の皆様たちをどう支援するかということで、マニュアル作成、また緊急救急時の医療情報キットの作成、こういったものを御提案させていただきまして、地域の中に17人いらっしゃるという災害弱者の皆様たちをどうフォローするかと、その流れを決める。また、どなたがどう担当していくかということを決めるというような取り組みをさせていただきました。

続きまして、北千束中自治会に関しまして、あるいは中自治会と高島平七丁目町会さんは、活動としては似ているところがございまして、それぞれ非常に活発な地域の親睦活動、また防犯・防災に向けた取り組みなどをやっていたらっしゃるわけですけれども、住民の方たちが、どの程度この活動を認知しているのか、また、この先どのようにかかわっていかうというふうな御要望をお持ちでいらっしゃるのか、この辺を把握するというところで、現状の地域のニーズ、また町会に対する認知度、またそれをどう高めていくべきかといったようなところに対するアンケート調査と成果提案が行われたという形になっております。

最後の郷地東町連合自治会さん。

こちらは、11の自治会さんが一緒になっている地域ということになりますけれども、こ

の中に実は12番目といいますか、約20年間活動が休止している自治会さんがありました。こちらの自治会さんにいらっしゃる方が、定年を迎えられまして、少し時間ができたと。もう少し改めて、この自治会を復活できないかということを考えていらっしゃいました。ただ、その自治会の復活に当たって、お一人だけではなかなか活動ができませんので、残りの皆様たちが自治会の復活をどの程度望んでいるのか、その場合に、担い手として立ち上がっていただける可能性はあるのかどうかという、ちょっと珍しいケースなんですけれども、一旦休会してしまっている自治会を復活できるかどうかという、その下調べをするようなアンケート調査を実施したというところでございます。

この中から、これから先、今アンケート調査を実施中ですので、これをもとに、この自治会が再開できるかどうかというところは、まだこれから先、地域のほうで考えていただく内容となっておりますが、このような形のアンケート調査も実施いたしました。

ちょっと長くなりましたけれども、以上でございます。

○山本座長 どうもありがとうございます。

一通り説明をさせていただきましたけれども、今の説明の中で、何か御質問とか、わからない点等がありましたら、いかがでしょうか。お受けしたいと思いますが。大丈夫でしょうか。

そうしましたら、少しここから意見交換というんでしょうか、させていただければと思いますけれども、本日は昭島市のほうから、町会連合会のほうから、資料を出していただいておりますので、この成果報告会に出たの評価ということで、机上に参考資料ということでお配りしておりますので、恐縮ですが、昭島の宮田会長、少しお話をいただくとありがたいんですが、よろしいでしょうか。

○昭島市 ありがとうございます。昭島の宮田でございます。

実は、きょう、このお話をいただいて、実は私もちょっと日程が合わずに、この会に説明会と、あと報告会に参加していませんでしたので、参加したうちの加入促進委員会というのがありまして、そこの副委員長の吉田さんがまとめてもらった書類がありますので、本日配らせていただきましたので、一つの都としての資料にさせていただければという思いで、出させていただきます。

そして、この吉田さん自体のですね。実は5年まで。

○山本座長 短く、すみません。

○昭島市 5年前まで、全然自治会には携わっていなくて、一般企業で頑張っていた方な

んです。そういう視点で自治会のことを書いて、取りまとめていただいていますので、そういう視点で読んでいただければと思います。

今も本当に昭島の中で一番すばらしい組織をつくり上げたという、その形で、今回の説明会と報告会を見ての御意見だということで、読んでいただければと思います。

まず結論としては、本当にすばらしい取り組みだということを吉田さんとしても言われていましたので、内容をまた読んでいただきたいですし、また支援するメンバーが、民のメンバーで、今までと違った斬新的な発想で取り組んでいると、これは本当にすばらしいことになるであろうということで、いろいろ書いていますけれども、裏面の成果報告のところにも、いろいろ現状こうだったんじゃないでしょうかという提案も含めて書かせていただいていますので、ぜひ参考にいただければと思います。

私自身も昭島市というところの今責任者をやらせていただいていますけれども、常々やっぱり東京都が多く、いろんな施策を打っていただけることに対して、本当に感謝申し上げます。

しかし、もう出てきたらどうぞやってくださいというふうな、やっぱり組み立てていく仕組みをつくる段階で、一度、自治会の関係者と、ちょっと事前調整をした上で、決定できるような流れをぜひつくっていただければ、もっともっといいものが発表され、我々自治会が使うことができるのかなと、常々思っておりますので、また今後ともよろしく願います。

本当にありがとうございます。

○山本座長 ありがとうございます。

この中にも、なかなか町会・自治会、アイデアとかマンパワーがない中で、こういう形で新しい方が入っていくことで、新しいものが生まれてくるということが評価をいただいているので、大変ありがたく思っているところでございます。嵯峨さんの説明でもありましたように、いろんな気づきが生まれているのかなというふうに、ちょっと思わせていただいております。

続きまして、今回のプロジェクトに参加していただいた足立区の町会連合会のほうで御参加いただいていますので、有馬会長に少し御感想というんでしょうか、今回どんな感じだったかという、簡単に感想だけで結構ですので、手短にお話をいただければと思いますけど。

○足立区 足立区町会・自治会連合会会長の有馬でございます。

私も、当日参加させていただきました。やはり、どこの町会・自治会、地域でも、一番の課題は加入率がだんだん減少している。私どもの地域でも、60パーセントの加入等がありますが、先日の出席されたパネラーの方でも、ちょっと場所は言えませんが、27パーセントというのがありましたし、30パーセントを切る団地もあり、ちょっと驚きました。

私どももいろんなことをしておりますが、ここにもありますように、イベントのときにパネルを展示して加入を誘ったり、またチラシを当日配ったりいたしますが、もう3年、4年くらい前からですか、もうじかに担当が未加入の方のお宅に伺ってお願いするというようなこともしておりますが、やはりどこの地域の皆さんも一生懸命やっているし、もう大変御苦労されていると思ひまして、大変勉強になりました。

○山本座長 どうもありがとうございます。

本当に成果報告会もそうですけど、最初の説明会するときもいろんな参加された協会の方と意見交換というんでしょうかね、できるところがあるので今まさに有馬会長がおっしゃったように、いろんなところが共通の悩みを持っていたり、いろんなことを考えているというのが共有化できるいい一つの機会になったのかなというふうにちょっと感じているところでございますけれども。

今までのところで何か御意見とか、御質問、こういう点はどうだったのかとか、何か御発言がありましたらいかがでしょうか。

まだ十分仕組みがわからないというようなことでも、初歩的なというんでしょうか、説明の部分でも結構でございますけども、何かございましたら。

そうしましたら、ちょっと恐縮なんですけど、今回参加されている町会のありますところの会長さんに少し御感想とかを伺わせていただければと思うんですけど、例えば大田区のほうでは二つの町会さんのほうで参加されておりますので、この町会での取り組みというよりもプロボノプロジェクトの御感想でも結構ですし、ここの町会の実情みたいなところでお話しいただいても結構なんですけど、何かございましたらお話しいただけると助かります。

○大田区 大田区の小原と申します。

今回のこのプロジェクト、実は我々も日ごろ悩んで、どういう解決をしていったらいいのか悩んでいるテーマをずばり解決していただけるというのは非常に期待をするところがあります。今回大田区から2団体、いずれも自治会・町会の規模としては世帯数で1,400

から1,700 ぐらいの世帯数で、中規模の組織だと思います。

大田区全体で今、72 万 3,000 人、世帯数で 38 万 5,000 世帯強あるんですけども、その中の自治会・町会の数は 217 あります。それぞれそこで活動しているんですが、いずれもテーマ、課題としましては、後を継ぐ人材の育成というのは非常に悩む。さらには、毎月やっている活動を回覧あるいは掲示板という手段でおこなっておりますけど、若い人たちは見向きもしない。そういう中から今回のこのプロボノプロジェクトは非常に的を得、若い方々も巻き込んで、またこの業務フローですとかマーケティング調査でも、年齢関係なく若い方々を大いに取り込んでいるという、これはこれからも非常に期待ができるんじゃないかなと思います。

大田区長は、常日ごろ地域力、地域力ということをお口に言われているんですけども、地域力、まさに自治会・町会の活動そのものなものですから、これをさらに支援をいただいて、活動そのものを活発にしていけるシステム、そしてツールをぜひお教えいただきたいなど、大いに期待したいと思っております。よろしく願いいたします。

○山本座長 どうもありがとうございます。大変評価していただきまして。こういう形で町会・自治会入って行って、いろんな方が入って行って御支援するというような取り組みも引き続き頑張っていきたいというふうに思っております。どうもありがとうございます。

続いて、練馬区のほうからは小竹町会というところから御参加いただいたんですけども、加藤会長、もし御感想でも結構ですので何かいただければ。まあ、何かこう課題というか、もっとこうしたらどうかというようなお話もあれば、いただけるとありがたいんですけども。

○練馬区 ありがとうございます。

私どもの町会の中の小竹町会というところですが、町会員を増やしていかなければならない、町会に関わる人を増やす、町会会館の利用促進をしたいというこの三つの大きな課題に、今回このプロボノチームの皆さんに応援をしていただきました。この町会の加入世帯は今 2,614 世帯で約 50%の加入率でございます。小竹町会のお話を聞いていますと、どこでもそうですが、町会役員が高齢化していて、プロボノワーカーさんのような専門のスキルを持った方が町会の支援をしてくれることは非常にありがたいと思います。また、町会は自分たちのことはよく分かっているんですが、他の町会のことはほとんどわからない、余り知らない。したがって、こうした各町会の先進的な取組事例を教えてもらえるということは非常に有意義だったというふうな御意見もいただいております。

またこのプロジェクトのよい点は、プロボノワーカーさんたちが既成概念を持たず、外からの視点でその町会の組織がプロジェクト終了後も継続してできるように配慮をしながらさまざまなアドバイスをしてくれるというところが非常にいいところだと思います。

また、今回練馬区で支援いただいた町会からは、プロボノの皆さんがウェブサイト以外にもいろいろと新しいアイデアを積極的に出してくれて、自分たちだけではとてもできなかった、とてもありがたい存在だったと伺っています。

また練馬区も、独自の町会ホームページの開設やメールリスト機能の提供など、今、町会活動の情報発信支援を行っていただいております。ぜひ今後も、このプロボノプロジェクトも積極的に取り組んでいただいたらもっといい課題解決になるし、町会にとってプラスになるんじゃないかと、このように考えております。

以上でございます。

○山本座長 どうもありがとうございます。

まだ公開されてないんですが、非常にいいホームページができそうな感じで、先ほど嵯峨代表のほうから話がありましたけど、小竹町にまつわるいろんな歴史的なこととか、取材を通じてわかったことがホームページで紹介されるようなものになるというふうに聞いていますので、なかなか地域をよく知る上でもすごく楽しいホームページがつけられるんじゃないかというお話が経過報告会でもありましたので、すごく楽しいものができるかなというふうに思っております。ありがとうございます。

それから、板橋のほうからは、高島平七丁目のほうから参加をさせていただいたんですけども、鈴木会長、少し、この町会についてでなくても結構なんですけど、何か御意見とか、もっとこうしたほうが、こうしろというような、何か厳しい御意見をいただければとても結構なんですけど、いかがでしょう。

○鈴木副座長 御指名いただきました板橋の鈴木孝雄でございますが、結論から言うと、このプロボノの簡単に言うと先生方、非常に有能でありがたいことで、我々の望むところ、かゆいところに手が届くような形で努力していただいていること、まずは厚く御礼を申し上げたいと思いますし、この「地域の課題解決プロボノプロジェクトについて」の中にもありますとおり、専門的なその経験を持っている方、専門職が地域の方と接点がちょっとなかったということで、地域も今度は逆に、専門的な分野がちょっとやはり地域の信用は皆さんございますが、ノウハウがちょっとないので、その辺のところはちょうどドッキングできたことで非常に町会・自治会が活性化するかなと思っておりますので、その辺があ

りがたいと思いますし、御承知のとおり我々町会・自治会の最大の課題はやはり加入率の問題でございまして、その加入率についても参加の輪を広げたいというような形で御努力もしていただけるということ。

例えば、私の極端な話でございしますが、単位町会で聞いた、私が実際に見聞きしたんですが、町会長が一人でそれは七、八百世帯の町会・自治会なんですが、副会長が一人だということですよ。やはりそれがちょっと、頼んでもいないんだということでも一人だったんですけれど、なおかつ、やってくれる人がいないから身内が会計をやっているというような形で、それはやはりちょっとあり得ないことかなと思います、やはりどういうふうにも人の輪を広げたらいいかということもノウハウの中ではちょっとないところもあったのかなと思いますので、このプロボノの方の力を得て、皆さんの地域においてより活性化すれば、なおいいんじゃないかなと思いますので、それについては今後も、30年度もぜひひとつ、これからも皆さんの利用をお勧めしたいと思います。

そして最大のこの加入率の問題プラス、そこに町会・自治会に参加したことがない人が加わっていただけるということ、それはとりも直さず町会・自治会に協力してくださる予備軍というか、そういう形もあるかなと思いますので、積極的にこの参加したことの無い方も巻き込んで、皆さん、このプロボノで頑張っていただければ一番いいかなと。

結びになりますけれども、先ほどのお話の中にもありましたとおり、他の町会の情報が得られる形が取れたのでいいことだということでございしますが、私の、少し本題と外れますが、この東京都の町会連合会もある意味では23区、三多摩、新島さんも入れて、情報交換をすることによっておらが姿が鏡に映るという形で反省するところは反省し、そして伸ばすところ伸ばすような形がこのプロボノを通して実現できるかなと思いますので、私はこれを機会に、なお一層東京都におかれましてはこの30年度だけと言わず、31年度も引き続いて充実した形で御協力願えれば、我々も地域でのいい活動ができるかなと思いますので、よろしく、プロボノの先生方を初め、この東京都の山本さんを初め、皆さん方の御尽力を切にお願いいたします。

以上でございます

○山本座長 ありがとうございます。引き続き取り組みをさせていただきたいというふうに思っております。

それからちょっと戻ってしまっただけなんですけども、昭島市の郷地東町連合会のほうの取り組みは、ちょっと特殊というんでしょうか、なかなかおもしろいなというふう

よっと感じているところがありまして、休会している自治会の再開に向けた取り組みということでプロボノを御活用いただいたんですけども、こういう取り組みというのは昭島のほうではよく取り組みがされているというふうに思っているところなんですけれども、いかがなんでしょうか。割と休会しているとか停滞しているところを立ち上げていこうというような取り組みというのは割と積極的に進められているというようなところがあるのでしょうか。プロボノにかかわらず少しお話をいただけるとありがたいんですけども。

○昭島市 では、昭島のほうから紹介させていただきます。

実は私ども、昨年まで加入促進をやろうやろうと言ってはいましたけれども、自治会を活性化させようと言っていても、じゃあどこの委員会がやるのかという、ちょっと不明確なところがありましたので、平成 29 年度の今年度ですね、加入促進ともう明確にする委員会をこういう形で立ち上げて、ですから、もうここで 1 年間ずっと加入促進のことについて討議を、きょうは本当はまた別の資料をこの吉田さんという方がしっかりつくってくれているんですけども、そういう形で本格的に自分たちの足元を見直そうという組織をつくることによっていろんな意味で活性化、従来の委員会でしたら、まあそれは誰かがやるだろう的な人に任せたとあるところがあったかと思えますけれども、明確にこの加入促進とあと地域防災、そして総務企画という三つに明確に分けて委員会を明確にしたという。その間に活動を月々何をやっていくか、この 1 年間どのように進めていくかということも明確にしまして、4 月には各自治会からアンケートをいただき、またそのアンケートいただいたやつを検討し、また我々はブロックというんですけども、五つから 10 ぐらいの固まった組織のブロックにはまた秋にブロック町会のアンケートをいただいて、もうとにかく現実の問題を全部浮き彫りにしようじゃないかという活動の中で少しずつ動き始めているかなと。

また、自治会としてもことし二つ新しく誕生して、二つ、今準備を進められていますので、そういう動きの中で今まで他人事が一つ一つ皆さんの責任として動きが出てきたのかなと、そういうふうに思っております。

以上です。

○山本座長 ありがとうございます。今みたいな取り組みの中できっと、じゃあこれをプロボノの力をかりてこのアンケート調査で住民がどんなことを考えているのかというのを調べてみよう、把握してみようということにつながったのかなというふうにちょっと今のお話で感じたところでございます。

大分時間も進んでまいりましたけれども、何か今までのお話の中で御意見とか御質問とかがもしあればいかがでしょうか。今まで御発言のない方、いかがでしょうか。

○新島村 大変申しわけありません。

大森北町会の防災プロジェクトというか支援体制について支援されたということなんです。要支援者の公表についてどういうふうな公表の仕方をしなさいというような支援をされたんですかね。個人情報関係がものすごい今はうるさくて、要支援者の中に私の名前は載せないでくれというような方があると思うんですが、その辺はどういうふうな教えをされたんですかね。

○山本座長 わかりました。要支援者の取り扱いということですね。よろしいですか。では、嵯峨代表のほうから。

○嵯峨代表理事 私が把握している限りでの回答ということになりますけれども、大田区さんのほうでそういった方に対して情報開示をしてよいかどうかというところの許諾を取った上で開示しているというのがまずございます。その開示の範囲もその町会長さんとか民生委員さんとかということで、非常に限定的になってきまして、実際大森本町北町会さんの場合は、町会長である方が民生委員もやってらっしゃるという方だったんですね。なので、情報が手元にあるという状況だったんですけれども、ただ、そこから先に何も手を打たなくていいのかというところでとまっていたというところの中で、そういう意味で開示された方の17人というのは、許諾をいただいた17人についてということになっておりまして、そういう意味では全員というわけじゃないんですが、一応そういう許諾を経た上での情報開示というふうに伺っております。

○新島村 支援体制のフローチャートをちょっとつくってありますよね、下のほうに。この体制の中で町会の皆さんに公表はされたんでしょうかね。

○嵯峨代表理事 支援チームに入るこの班長さんまでには開示がされていると思います。もちろんそういう意味ではごく限られたメンバーということになると思うんですが、やはりその辺の、というふうに私としては理解しているんですけども、ちょっと詳細までは把握し切れていないのですが、Aさんについての担当ということで一定程度の開示はされているというふうに認識しております。

○山本座長 よろしいでしょうか。

他に何か。大崎相談役、よろしいですか。御意見があると。

○東京都町会連合会 新宿町会連合会常任相談役を務めておる大崎でございます。

この北新宿二丁目町会、この山田さんですが、一番若手で今副会長ということで大変活動しているわけですが、まず最初に平成16年に私が会長をやっている当時、シンジクイレブンというものを立ち上げて、大変これが各新宿区の場合は11の連合会があるわけです。その11の中から毎月そのイレブンにいろんな、我が町会はこういうことをやっているよということ載せるということで、大変これが好評を得まして、それに加入するにもそういうフリーマーケットをやるとかいろんなものを載せてきているわけがありました。

そういう意味において、このシンジクイレブンということで見ると、私の顔がぱっと出るわけですよ、実際の話は。そういうことで大変、これは正直なところ随分早くそれを実行したなと自分ながら思ったのですが、大変これは会費は何かというと、うちの11の連合会がありまして、その中からそういう会費をもらっているというような状況でございます。我がまちはこういうことをやっているんだよと、これをホームページ、イレブンに載せたと、載せろということございましたので、大変これは好評を得まして、いろんな意味で現在もそれを見れば新宿区の活動がわかるというようなことでございます。

そういう意味において、今これを見たら、山田さんが新宿区の副会長として大変私も期待している人なんです、そういう意味において大変すばらしいなと思っているわけでございます。

そういう意味において、町会というのは何をやっている、フリーマーケット、もうあらゆるものを行っているわけですよ、各町会によりましては。そういうことで、もうそれこそうちのほうの町会連合会はフリーマーケットをやるときには、新宿以外からも申し込みがあるわけです。

それは何かというと、先ほどの中に掲示板にはらせる、またそれを町会から、掲示板が今話していて一番やっぱり効果があるんですね。そういう意味において、新宿区以外からもどんどん申し込みがあると。抽選するのは大変なんです、実際の話。だから多い場合は、フリーマーケットをやるには段取りがあるから、まず最初に来た、手伝った方に優先的にさせるというような条件をつけたんですよ。結構新宿区の中でも落合からも、以外からも申し込みがあるということでございます。

だからそういう意味において、町会に入っていると何がプラスになるかということ、そういう活動的な皆さんがわからないようないろんな催しをやっているんだよと。そういうこ

とで我々もそのバックアップをするには、育成会とかあらゆるものをそういう組織にバックアップしながら応援しているわけです。

だから、今言う防災のことにして、毎月2回くらい学校に行って防災訓練をするというようなこともやっておりますから、今言うとおり年齢的にはなるだけ若い人をお願いすると結構若い人も来るようになってきているんですよ。それで結局町会ばかりだとうちのほうの町会というのは大体8割が会社なんです。町会に加入しているけど8割がもう会社というようなことで、町会には協力するんですが、夜間はいないんですよ、誰も。そういうような地域差によっても随分この町会のほうは、大変な町会もあるし、と思うんですよ。

今、例を挙げれば、うちの町会は8割がもう企業、会社なんです、実際の話は。そういう意味において、だけど町会に対する協力はさせていただいているわけですよ、全部加入していますから。我々、防災訓練をどこでやるかという、学校の校庭を借りたり、それから家の近くに新しくできたああいう資料館というのがあるんですよ。そこでもそういう防災の訓練をするということで、やっぱり身近な防災という、やっぱり皆さん、いつ何時東京が大きな災害が起きるかわからないという、そういう気持ちがあるから結構集まるんですよ。そういう意味において、やっぱり声かけ、掲示板等々をはるようにしているわけでございます。

以上です。

○山本座長 ありがとうございます。

今お話があったような活動が基盤にあって、今回はまだプロボノでフェイスブックですね、SNSを使った発信をもっとやってこうということで今回御依頼があって、一応の成果を出していただいたということだと思います。今お話、大崎相談役からありましたような基盤となると活発な取り組みというんでしょうか、町会としての活動があるからこういう次のステップが踏んでいただけたのかなというふうになんかちょっと感じたところでございます。どうもありがとうございます。

それでは、時間も大分押してまいりましたので、ちょっと最後に来年度の予定について少し御説明させていただければと思います。大きい紙のA3で1枚お配りしていると思いますが、資料7というところで30年度の御案内ということで資料がございますのでちょっと見ていただければと思います。時間の関係もありますので簡単に御説明させていただきたいと思います。

来年度につきましても継続してこのプロボノプロジェクトをやっていこうというふう

思っております。今年度の反省としてちょっと初年度ということで立ち上げに時間がかかってしまいましたので、ことしよりも少し早目にスタートをしていきたいと思っております。説明会・相談会を5月から6月の間で複数回開催したいというふうに思っておりますので、ぜひお申し込みをいただければと思います。ここは、こちらからの説明だけでなく、それぞれの町会さんが持っている課題について少しいろいろ話し合っ、どんなことをやっていったらいいかという課題を整理するという場になってきております。

その説明会・相談会の後にプロジェクトに参加するかどうかというお申し込みを受けて、その後いろいろやりとりさせていただいて、どの町会さんでプロジェクトを進めていくかということ決めていくことになります。

来年度はコースが三つ用意しようというふうに思っております。

一番下の個別支援コースというのが今年度と同じ、本日説明させていただいたプロジェクトと同じものをやります。こちらはなかなか手がかかるといふんでしょうか、じっくりやっていくものですから数がなかなかできないので、ことしと同じ10団体程度ということになります。ただ、御要望も大分あるようですので、もう少し幅広でということと書いてあります上二つのコースを用意しております。

個別支援コース、一番下の方はプロボノのボランティアさんがチームになって町会・自治会でいろいろな成果品、課題解決の成果をプロボノチームがつくるというコースですけれども、上のほうはプロボノが直接成果品をつくるというものではないんですけれども、町会・自治会さんのほうで例えばチラシをつくらうとか、アンケートをしようというときに、それを少し側面からお手伝いをする、助言をするというような形なので、のコースになっております。ですから、実際には町会・自治会さんのほうでチラシづくりとかアンケート調査づくりはしていただくんですけども、そこにプロボノがかかわってサポートするというような形でコースを用意しております。そのかわり、受け付ける、申し込んでいただける団体数としては合わせて30団体ということで数を多目に受付できるようにということで新しいコースをつくっております。

この上のコース、相互学習コース7月から大体12月の間でプロジェクトを実施するようなことを考えております。個別支援コースについては10月から12月というような期間を想定しているというようなこととございます。

こちらについてはまだ予定でございますので、詳細については4月以降にまた御案内させていただきますというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

私のほうからの御案内は以上でございます。

それでは、大変長時間にわたりましたけれども、時間が迫ってまいりましたので、最後に副座長の鈴木副座長にまとめをしていただいて終わりにしたいと思います。

○鈴木副座長 皆様方、お忙しいところ御出席していただいたこと、私からも厚く御礼申し上げます。山本さんにとりましても充実したこの時間だったかなと推察を申し上げます。

皆さん方もお忙しいところ来ていただいて、きちんと勉強していただいたことと御推察申し上げます。どうかひとつ、今日のこの検討会を糧にいたしまして、地域にあって、より一層の御活躍を御期待申し上げて、私の御礼になるかどうかわかりませんが、都庁の山本さんを初め、関係者の皆さんに厚く御礼を申し上げまして、私の挨拶といたします。どうもありがとうございました。

○山本座長 副座長、ありがとうございました。それでは、これで本日の地域活動に関する検討会を閉会とさせていただきます。また次回は一応7月を予定しておりますので、また御参加のほど、よろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

14時28分閉会